

一畳ぶどう園 2023(令和5)年度作柄

2023年3月28日(火)

神明桜も開花し、いよいよ春本番の季節。当園の果樹も芽が出始めた。満天星どうだんツツジはすでに満開に近い。ブドウはまだ蕾である。



いちじく、富有柿、ブルーベリー 一斉に芽を吹く。今年も実をつけてほしいものである。昨年、柿とブルーベリーの花は沢山咲いたが、結実せず。イチジクは大量に収穫した。



毎年ブルーベリーは、花は咲くが結実せず。ネット情報によれば受粉作業が必要とのこと。ラビットアイ系2本あり、今年初めて梵天(耳かき)で人工受粉を実施。収穫が楽しみ。

2023年4月9日（日）

いよいよブドウが元気に芽吹いた。隣りに咲くドウダンに目を覚まされたようである。



（下左）友人からいただいた百日紅サルスベリ。
まだ20センチほどであるが可愛く芽吹いた。

（下右）これも友人からいただいたウツギで
玄関前で花を咲かす。



柿、イチジクも3月28日に比べて一気に葉が出始めて、順調である。



2023年4月21日（金）

ブドウは今年も元気に花芽が出て順調である。玄関のウツギも満開。



2023年5月20日（土） 摘房・摘心・花房整形作業 21日（日）ジベレリン処理1回目
摘果の翌日、種なしにするため初めてのジベレリン処理実施。効果が出るか楽しみ。



2023年6月1日（木）摘房・ジベレリン処理2回目・袋掛けを実施

ジベレリン処理 1回目：100ppm・100ml 2回目：75ppm・200ml

台風2号が沖縄を通過し東海沖へ近づき、明日2日から風雨強まるとの天気予報であるが、ジベレリン1回目から10日経過しているため2回目を実施。ジベレリン液につけた後、数時間空けて袋掛けを実施。袋を掛ければ雨でも問題ないとの勝手な理屈である。

僅か10日で房はまた成長

ジベレリン処理後、袋掛け41袋



柿、イチジクも今のところ順調。柿も摘果したがまだ大量に実がつき更なる摘果が必要か。イチジクは強剪定をしたが元気よく芽吹き、実も見えてきた。今年も期待したい。ブルーベリーもますますの実付きであるが収穫に至るか安心できず。



2023年6月4日（日） 大雨被害への手当て

6月2日から3日にかけて、台風2号が梅雨前線を活発化させ近畿、東海、関東で豪雨災害が発生。沼津市でも黄瀬川で危険レベル5の緊急事態。我が家の畑も極めて深く冠水。



物置隣がブルーベリー、その右側水面にわずか棒が出ているのが倒れたトマトの棚。キュウリは倒れず持ちこたえたが、なす、インゲン豆も冠水し、葉、花は泥だらけとなる。

6月4日 トマトの棚を補修

本家の物置も浸水被害多大



大雨に加え、暴風でブドウ棚も崩れゆがみ、補修を実施。
(補修前) 棚は右下がりの状態

(補修後)



大雨を承知した上でのジベレリン処理、袋掛けであったが、このように大規模な暴風雨とは思わず、判断を誤った。しかし落下した袋はなく、数日すればどの程度の影響であったか判明するであろう。とにかく驚きの暴風雨であった。

2023年7月17日（月）海の日 気温予報 35℃ 熱中症警戒アラート発表、連日の猛暑



ブドウは5月、葉を虫に喰われたがその後順調。試しに袋を開けてみたらブドウは膨らみ始めていた。



手前が柿、奥がいちじく 柿は今年も落果が多い。イチジクは順調で収穫が楽しみ。



6月2日に冠水したトマト、きゅうり、なすも何とか立ち直り、収穫中。



2023年8月3日(木) 連日の猛暑日 一畳ぶどう園始まって以来のピンチ

鳥の仕業と思われる被害が発生。本日8房、すでに5, 6房の被害あり。これが食べられたままの袋の姿である。病虫害はあったが、鳥被害は初めてである。



左：袋の中の状態。上手に食べている。
下：鳥に先取りされないよう、良さそうな房を試食。一部未熟であるが、まずまずの味。種なし処理の成功を確認。



対策としてネットを掛けてみる。しかし翌日、ネットが届かないところの房を食べられた。

袋掛け41袋のうち既に20袋程度、食べられた。憤まんやる方なし。

2023年8月29日(火)



最後のブドウ2房である。鳥に食べられ、今年は6房の収穫にとどまる。悔しさは計り知れないが、孫から「今年のブドウは種がないから美味しい」といわれ大満足。

昨年の最終収穫日は作柄記録によれば10月14日である。まだ8月なのに最後の収穫とは、今年の異常気象を物語っている。

(完)